

今年で4年目になりました、瀬戸内まなび塾。第1回は教職経験1年目の方から2\*年目の方まで、計26名の参加がありました。皆さんの貪欲に学ぼうとする姿に、瀬戸内の教師力を感じました。個人的に算数の教材研究について質問をもって来られた方も。瀬戸内の先生方は熱い！

## 第1部 自分で受けてみると分かる違和感 ~学習指導を基本とした授業づくり~

授業5はやっているけど、めあてとまとめ、評価がバラバラだとこんな授業になるんだ...という失敗例を、「自己紹介をしよう」と題した模擬授業を通して感じてもらいました。

昨年度教えていただいたことをなかなか生かしきれていないと感じた。学んだことを1つずつでもいいから普通の授業に生かしていきたい。

「何がどうなったら、先生はこう評価するね」と伝えて、子どもたちは達成したい、先生は達成させたい、という思いが教室にあふれるように授業づくりを頑張りたいと思います。

評価を意識しためあてを示せるよう心がけていきたい。

子どもの気持ちになって自己紹介の評価を聞くとおかしいなと思いました。自分は子どもたちにそういう思いをさせていないのか考えさせられました。



新学習指導要領など、新しい知識も必要ですが、「当たり前のこと」とか、「分かっているけど実践につながっていないこと」などを再確認し、足下を固めましょう。(渡邊)

## 第2部 子どもと一緒に考えたいことを中心発問に ~道徳の授業づくりの基本~

道徳科の授業づくりの第一歩は、授業者が道徳的価値の理解を高めることです。授業では行為や行動の変容を求めるのではなく、その価値について子どもと一緒に考え、道徳性を育成することが重要です。この講義の後、小学校5年生の資料を用いて授業づくりの勉強をしました。

10の考えが出る中心発問を考えるというのが分かりやすかったです。

特に道徳の時間について、自分が勘違いしていることが多いと感じました。道徳的価値の理解を深めることで、子どもが学べる授業を考えていこうと思いました。

「善悪を判断する能力」を間違って解釈していたので、色々勉強し直さないといけないと思いました。

主人公の変容を通して道徳的価値を考えると、必然的に自己の価値について振り返っていることに納得できた。

道徳担当者や担任が一人で授業を考えたり、一人で教材研究をしたりするのはとても難しいと思います。指導書に飛びつく前に、みんなで資料や指導要領解説をしっかりと読み込み、考えを出し合っ、授業をつくっていきましょう。(木村)



参加者からの  
主なリクエスト

発問の工夫(多数)、子どもとの距離感(多数)、振り返り、道徳の評価などについてリクエストがありました。できる限り取り上げていきたいと思っています。まずは校内OJTを生かして、同僚の先生方と話題にしてみるといいですよ。